

DRUG

INFORMATION

2001 No. 13

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成13年8月1日発行

目 次

1. 院外処方医薬品について

ー平成 13 年 8 月 1 日新規登録薬品ー

ー平成 13 年 8 月 16 日新規登録薬品ー

※ Drug Information は医学部ホームページの下記アドレスにて提供しています。

<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/index.htm>

院外処方医薬品について

平成 13 年 8 月 1 日新規登録薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ヒルドイドローション(ヘパリン類似物質)	25g/本	血行促進・皮膚保湿剤	マルホ
ポステリザン F 坐薬(大腸菌死菌浮遊液, ヒドロコルチゾン)	1.5g/個	痔疾治療剤	マルホ
モビラートゲル(ヘパリン類似物質, 副腎エキス, サリチル酸)	25g, 50g/本	経皮複合消炎剤	マルホ
レクトス注腸軟膏(ジクロフェナクナトリウム)	25mg, 50mg/個	鎮痛・解熱・抗炎症剤	藤沢

【商】ヒルドイド Hirudoid マルホ

外用：ローション剤

1g 中ヘパリン類似物質 3mg (25g)

【禁】出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）のある患者，僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者

【効】皮脂欠乏症，進行性指掌角皮症，凍瘡，肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防，血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結並びに疼痛），血栓性静脈炎（痔核を含む），外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）

【用】1 日 1～数回適量を患部に塗布する。

【副】皮膚炎，瘙痒，発赤，発疹，潮紅

【商】ポステリザン F Posterisan F マルホ

外用：坐剤 1 個（1.5g）中大腸菌死菌浮遊液 0.245mL，ヒドロコルチゾン 3.75mg

【禁】局所に結核性・化膿性感染症又はウイルス性疾患のある患者，局所に真菌症（カンジダ症，白癬等）のある患者，本剤に対し過敏症の既往歴のある患者，ヒドロコルチゾンに対し過敏症の既往歴のある患者

【効】痔核・裂肛の症状（出血，疼痛，腫脹，痒感）の緩解，肛門部手術創

【用】1 回 1 個を 1 日 1～3 回肛門内に挿入する。

【副】緑内障，後囊白内障，皮膚・陰部の真菌性・ウイルス性・細菌性感染症，皮膚刺激感，瘙痒感，中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出，下垂体・副腎皮質系機能抑制，便秘，局所不快感，全身投与の場合と同様な症状

【妊】未確立，大量・長期使用回避

【小】大量・長期使用注意

【商】モビラート Mobilat マルホ

外用：ゲル剤 1g 中ヘパリン類似物質 2mg，副腎エキス 10mg，サリチル酸 20mg (25g, 50g)

【禁】出血性血液疾患（血友病・血小板減少症・紫斑病等）のある患者，僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者，サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】変形性関節症（深部関節を除く），関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解，筋・筋膜性腰痛，肩関節周囲炎，腱・腱鞘・腱周囲炎，外傷後の疼痛・腫脹・血腫

【用】1 日 1～数回適量を塗布，塗擦又はガーゼ等にてのぼして貼付する。症状により密封法を行う。

【副】瘙痒，かぶれ，発赤，発疹，皮膚炎，皮膚刺激

*ジクロフェナクナトリウム Diclofenac Sodium

【商】レクトス Rectos 藤沢

外用：軟膏剤（劇）

1 個（0.5g, 1.0g）中 25mg, 50mg

【警】高齢者又は消耗性疾患の患者は，過度の体温下降・血圧低下によるショック症状があらわれやすいので，これらの患者には特に慎重に投与すること。また，幼小児においては，過度の体温下降・血圧低下によるショック症状があらわれやすいというに，本剤形上用量調節が困難なため，投与しないこと。

【禁】消化性潰瘍のある患者，重篤な血液の異常のある患者，重篤な肝障害のある患者，重篤な腎障害のある患者，重篤な高血圧症のある患者，重篤な心機能不全のある患者，本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者，直腸炎・直

腸出血又は痔疾のある患者，アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等により誘発される喘息発作）又はその既往歴のある患者，インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症の患者，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【効】○下記の疾患並びに症状の鎮痛・消炎：慢性関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，後陣痛 ○手術後の鎮痛・消炎 ○他の解熱剤では効果が期待できないか，あるいは他の解熱剤の投与が不可能な場合の急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）の緊急解熱

【用】1回 25～50mg を1日 1～2回，直腸内に注入するが，年齢，症状に応じ低用量投与が望ましい。低体温によるショックを起こすことがあるので，高齢者に投与する場合には少量から投与を開始すること。

【副】ショック，アナフィラキシー様症状，出血性ショック又は穿孔を伴う消化管潰瘍，再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板

減少，Stevens-Johnson 症候群，Lyell 症候群，剥脱性皮膚炎，急性腎不全，ネフローゼ症候群，重症喘息発作（アスピリン喘息），間質性肺炎，うっ血性心不全，無菌性髄膜炎，重篤な肝障害，急性脳症，横紋筋融解症，胃痛，小腸・大腸の潰瘍・狭窄，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎悪化，膵炎，悪心・嘔吐，腹痛，下痢，軟便・直腸粘膜の刺激，消化性潰瘍，胃腸出血，便秘，食欲不振，口内炎，出血傾向，血小板機能低下，貧血，黄疸，AST・ALT 上昇，肝障害，光線過敏症，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫，発疹，蕁麻疹，不眠，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害，眠気，めまい，頭痛，視覚異常，味覚障害，聴覚障害，耳鳴，頻脈，血圧低下，血圧上昇，動悸，発汗，脱毛，浮腫，発熱，胸痛，全身倦怠感

【妊】不可 【授】授乳回避

【小】不可

平成 13 年 8 月 16 日新規登録薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ラクツロース末・P(ラクツロース)	6g／包	経口用二糖類製剤	日研化学

＊ラクツロース Lactulose

【商】ラクツロース・P Lactulose・P 日研化学
内用：散剤 原末

【禁】ガラクトース血症の患者

【効】高アンモニア血症に伴う下記症候の改善：精神神経障害，脳波異常，手指振戦

【用】1日 18～36g を2～3回に分割して用時，水又は湯水に溶解後投与する。本剤の投与により，下痢が惹起されることがあるので少量より投与を開始して漸増し，1日 2～3回の軟便がみられる量を投与する。

【副】下痢，腹鳴，鼓腸，腹痛，食欲不振，嘔気

【妊】未確立，有益のみ